国有林防災ボランティア活動の実施報告

（一社）名古屋林業土木協会

活動内容	平成３０年７月豪雨災害に係る防災ボランティア活動

１　実施年月日　　平成３０年６月２８日～７月１７日
２　実施場所　　岐阜県下呂市小坂町　落合国有林ほか延べ２６箇所
３　参加会員数　　１９企業　延べ５２人（別表のとおり）
４　活動内容

当協会では、地震、台風、集中豪雨等により、林地荒廃、治山・林道施設の被害などが発生若しくは発生の恐れがある場合は、森林管理署等の要請を受け、中部森林管理局と締結した「国有林防災ボランティアに関する協定」に基づき、現場パトロール等を行っています。

平成３０年度は、６月２８日以降、発達した梅雨前線が台風７号の通過後南下して活発化し、西日本を中心に記録的な大雨を降らせ、各地で甚大な被害（平成３０年７月豪雨災害）が発生しました。

中部森林管理局には対策本部が設置され、防災ボランティア協定に基づき要請があったので、当協会では管内国有林の巡視、治山・林道施設の点検を実施しました。点検に当たっては、被災状況の調査とともに、既設治山施設の効果発揮の状況や河床の変動状況、被災時の流量の目安となる写真なども撮影し、関係森林管理署へ報告しました。

活動写真等

【防災ボランティア活動の種類】
① 国有林内の被災情報収集
② 二次災害の防止措置
③ 軽微な作業

①　林道路肩決壊の調査状況

②林道危険箇所へカラーコーンを設置

③県道への流出土砂の除去・清掃

活動写真等

【 調査結果の報告事例】

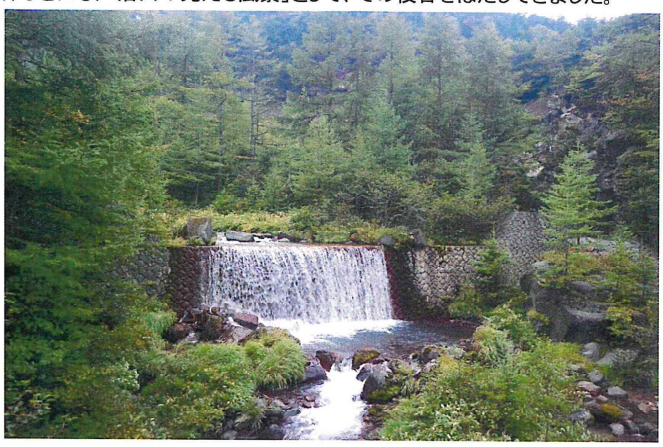
岐阜県下呂市小坂町　濁河国有林　草木谷

被災前の既設えん堤の状況と被災後の状況を対比し、治山施設の効果も併せて報告

今、山の中で何が？（No. 1）

草木谷第2号玉石コンクリートえん堤（平成29年9月撮影）

昭和30年代に施工し、経年の損傷を平成4年に補修したえん堤です。
近年は、大きな出水もなく、護岸や河床には、自然由来の植生もあり、緑豊かな山となり登山者などにも、「治山の見える風景」として、その役目をはたしてきました。



草木谷第2号玉石コンクリートえん堤付近（平成30年7月9日撮影）

平成30年7月27日からの豪雨により上流より多くの土石が流れ、谷付近の繁殖した立木や護岸の植生を浸食し、更に多くの土石が堆積しえん堤本体も袖部に損傷を被り、土石で埋まった状態となりました。

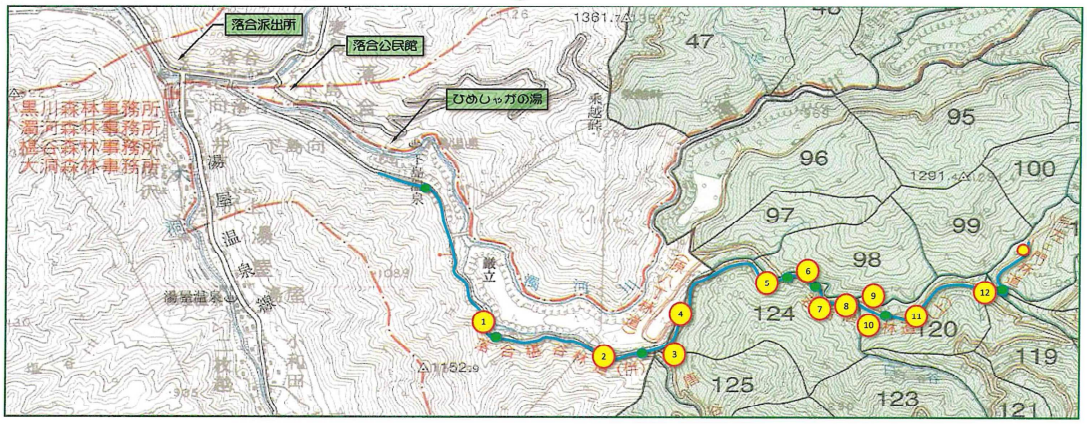
現在、出水も納まっているが、堆積した土砂は、想像を遙かに超えた量であり、もし先人が草木谷にえん堤を施工して居なかったと考えたら、大変な被害となっていたことは、想像するのは、難しいことではありません。

今後の予期せぬ豪雨や御嶽山の噴火等の自然災害を考えた場合、早急な対応が望まれると考えます。

活動写真等

被災箇所図

● ：待避場　　● ：被災箇所



被災箇所状況説明等

番号	被災状況等	対応措置案	備考
1	山側から土砂の流出	撤去（下呂市管轄区域？）	
2	林道下法尻洗堀，今後崩壊の危険あり	点検確認、危険であれば護岸構造物等での養生が必要（県土木管轄区域？）	
3	流木の現存位置確認（被災時の流量の目安）	―	
4	流木の現存位置確認（被災時の流量の目安）	―	
5	路肩洗堀崩壊，今後崩壊の危険あり	点検確認、山側側溝を埋設し大型車両通行幅員の確保　必要に応じ護岸構造物等での養生が必要	
6	路肩洗堀崩壊，通行不可能	根固め，護岸及び路側構造物の施工をし，林道幅員確保	
7	路肩の洗堀，構造物根の洗堀	護岸及び路側構造物の施工をし、安全確保	
8	既存谷止め流路部崩壊	―	
9	河川流路移動により今後林道下の洗掘の可能性あり	河川流路方向の変更及び護岸構造物による洗掘防止	
10	路面流水，集中排水により洗堀	側溝整備による排水の正流化	
11	山側から土砂の流出，吐口部洗堀	撤去復旧	
12	山側から土砂の流出，吐口部洗堀	撤去復旧	

3. 被害写真

H30.7.2　現況　門扉から500m付近(起点側から望む)　路肩洗堀状況　⑦

H30.7.2　現況　門扉から500m付近(起点側から望む)　路肩洗堀状況　⑦

【 調査結果の報告事例】

岐阜県下呂市小坂町
濁河川流域
国有林下流部の民有地の状況も含め
被害状況等を情報収集し報告